



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	未利用資源の活用による冬季の観光まちづくりの促進過程：スウェーデン・キルナ市のアイスホテル創造プロセスを事例に
Author(s)	福山, 貴史
Description	公益社団法人日本都市計画学会北海道支部 令和元年度研究発表会 2019年11月16日 北海道大学工学部A棟 2階アカデミックラウンジ1・2
Issue Date	2019-11-16
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77756
Type	conference paper
File Information	abstract_format.pdf





未利用資源の活用による冬季の観光まちづくりの促進過程 - スウェーデン・キルナ市のアイスホテル創造プロセスを事例に -

福山 貴史*
Takafumi Fukuyama*

Keywords: 未利用資源, 価値創造, アイスホテル, 雪氷観光, 冬のまちづくり

1. はじめに

“Dig where you stand.” この言葉からスウェーデン・キルナ市の冬季の観光まちづくりは始まった。これは、「何かを創造する時は、先ず自分の足元を掘り下げることを重要視していた、世界初最古アイスホテルの創始者、イングベ氏の言葉である。

人間との長いかわりの歴史において、雪と氷は多様な雪氷災害の原因であり、社会、経済、生活環境にマイナスの影響を与え続けてきた。その一方で、近年その雪氷をプラスの資源として利活用した「雪氷観光」創造の事例が多く見られるようになった。例えば、北海道紋別市発祥の「流水観光」や、青森県五所川原市の「地吹雪ツアー」のように、これまで利用価値の有無どころか、地域の「厄介者」として扱われてきた雪氷は、いま観光資源として利用されている。こうした動きは、地域への経済波及効果や地域ブランドの構築に一定程度貢献していると考えられ、実態として、冬季の観光まちづくりに繋がっている。

2. 研究の目的と方法

そこで本研究では、前述した世界最古のアイスホテル創造の事例を取り上げ、それまで未利用だったキルナ市・ユッカスヤルビ地域の雪氷の資源活用プロセスと、その観光資源化の動きがキルナ市全体の冬季の観光まちづくりに繋がった要因を明らかにすることを目的とした。

そのため、ユッカスヤルビのアイスホテルに係る文献や郷土資料を調査した上で現地で関係者にヒアリング調査を行った。加えて、実際のアイスホテル宿泊者にもヒアリング調査を行った。本研究は、これらの調査結果を、資源論と基礎的なマーケティング論の融合的な見地から分析した。

調査対象地であるキルナ市は、北緯 68 度の北極圏に位置し、人口約 18,000 人、鉱山事業が主要産業のスウェーデン最北の都市である。当該地域のアイスホテルを事例分析に選定した理由は、世界で初めて、それまで未利用だったトルネ川の氷が、イングベ氏を始めとした関係者の取り組みによって利活用されるという、資源化にかかる明らかな価値創造プロセスが認められることである。加えて、それまで夏季の自然体験観光が主だったキルナ市が、それ以降、冬

季の観光振興に顕著に繋がったことである。

3. 調査結果と分析

当該アイスホテル誕生のルーツは実は北海道にある。1988 年、さっぽろ雪まつりを視察し、地元開催のヒントを得たイングベ氏は、1989 年、旭川市から 2 人の氷彫刻家をキルナ市に招待し、地域関係者に対するセミナーを開催した。その後、イングベ氏らはイグルーを建設し、そこでアートギャラリーを開催した。1991 年、宿泊キャパ不足によりキルナ市への訪問客を当該イグルーに泊めたことが、世界最古のアイスホテル誕生のきっかけとなった。

その後、アイスホテルは毎年新たな価値創造に取り組んできた。例えばアイスバーや氷の教会、アイスサウナやアイスシアターの設置などである。また、氷の各宿泊部屋は毎年異なるアーティストによって異なる氷彫刻が施されている。こうした氷彫刻や氷建設のノウハウは、例えばアフリカ・サハラ砂漠でのファッション博覧会など多くの機会に広く披露され、世界にインパクト与えた。一方、アイスホテルの建材である雪氷に直接関わる材質や構造強度などは、実験が繰り返行われた上で「氷の先生」と呼称される国内のルレオ大学の教授によって科学的に証明された。

こうしたアイスホテルの創造と進化に係る多くの取組みを資源論の視点から分析すれば、芸術などの文化的領域と構造計算などの科学的領域に二分され、これは資源論の大家であるジンマーマン (1985) の示唆を援用可能である。一方、それぞれの領域において、絶え間ない価値創造の努力と地域内外に向けた価値の伝達、つまり基礎的なブランディングとマーケティングのアプローチの二分も認められた。これら四象限によるシナジー効果は、結果的に地域内の関係者と地域外の観光客の双方が具体的にイメージできる、冬季観光地としてのキルナ市の成長を促進させた。

4. おわりに

今後の課題として、当該プロセスの分析の深化、および北海道での世界初の流水の観光資源化プロセスとの比較研究による共通要因の抽出や差異の考察などを想定している。

参考文献

- 1) ジンマーマン, 石光亨訳, 1995 : 資源サイエンス